

学校教育の構造と転換

国民主権・人権・多文化共生の教育を考える

【事前課題】

下記の5つの意見の中から、自分の意見に近いもの一つを選択し、それぞれの指示に沿っていずれも200字程度で答えなさい。

A～Eのどれを選択したのか、明記すること。

A:国民主権・民主主義の社会において教育の目的は、良き国家社会の担い手、良識ある公民、世界平和と人類の福祉に貢献する国民の育成にある。個人の尊厳や人権と、国民としての資質・公共性は、国民主権の下では表裏一体であり、決して矛盾しないし、また矛盾させてはならない。そこで、自国の歴史・伝統・文化を尊重し、愛国心を涵養する教育が不可欠である。愛国心とは、特定の政権・政治体制を一方向的に支持するものではない。政権を批判するためにも、自国をより良くしようという愛国心が必要だ。政治的立場を超えた国民としての歴史的・文化的な一体性・共同性、その象徴としての国歌・国旗・天皇等への敬意もきちんと教育すべきだ。国家による教育内容の検定も重要である。国際化が進む中、自国の伝統・文化・主権・アイデンティティを尊重する明確な国民意識があつてこそ、他国の文化・伝統・主権を尊重する多文化共生・国際理解も可能になる。(Aを選択した人は、次のBの意見を200字程度で批判しなさい)

B:国民主権・民主主義の社会において教育の目的は、一人の人間としての人格の完成、人権の実現、それを通じた世界平和と人類の福祉に貢献する市民の育成にある。個人の尊厳や人権の実現は、人類の普遍的な価値であり、特定の国民国家の伝統・文化・主権を超越したものである。教育の目的に愛国心の涵養を据えるのは、排他的で偏狭な自国民中心主義であり、戦前の国家主義教育への逆戻りだ。愛国心をもつかどうか、国歌・国旗・天皇等への態度は、個々人の内心の自由に属する事柄であり、学校教育において強制したり、評価(採点)すべきではない。教育内容も国家が一元的に管理せず、教育現場の自主性に委ねるべきだ。国際化が進む中、学校現場でも多国籍化・多民族化が進んでおり、特定の国民国家の価値観や文化に基づく同化を強制してはならない。多文化共生・異文化理解の基礎にあるのは、人類に普遍的な価値としての人権や民主主義、多様性の尊重であり、そうした教育こそ必要である。(Bを選択した人は、前のAの意見を200字程度で批判しなさい)

C:AとBの意見はどちらも一長一短がある。双方のバランスをとることが必要だ。(Cを選択した人は、どのような観点・方法でバランスをとるべきか、200字程度で記述しなさい)

D:AとBの意見は、どちらも間違っている。(Dを選択した人は、なぜ間違っていると考えられるのか、200字程度で記述しなさい)

E: どれが正しいかわからず、選べない。(もし、選べない明確な理由があれば、200 字程度で記述してもよい)